

I 研究の全体構想

学校教育目標

のびる がんばる みんな仲よし 野上っ子の育成

伸びる…確かな学力【知】 がんばる…健やかな体【体】 みんな仲よし…豊かな心【徳】

重点目標

- (1) 基礎基本の定着
 - ・ 1時間完結型授業の徹底
 - ・ 朝読書、ドリルタイムの設定
 - ・ 家庭学習の充実
- (2) お互いを認め合う児童育成
 - ・ 縦割り班掃除のとり組み
 - ・ あいさつ運動のとり組み
 - ・ 道徳教育の充実
- (3) 運動好きな児童の育成
 - ・ 元気UP集会のとり組み
 - ・ 外遊びの奨励
 - ・ 早寝、早起き、朝ご飯の徹底

めざす学校像

楽しく安心な学校
児童・家庭・地域に
信頼される学校

めざす子ども像

のびる確かな学力 || がんばる健やかな体 || みんななかよし豊かな心 ||

よく考え、
工夫し、表
現できる子
ども

ねばり強く
やり抜く
子ども

思いやりがあり、
協力し合う
子ども

めざす教師像

やる気に満ち、自己
変革しながら、職場で
一体となって取り組
める教師

学校経営の力点

学習指導の創造と充実《自ら学ぶ力を育て、学力の向上を目指す》

☆教科領域の全体を通して、学習の意欲に満ち、成就感を味わうことのできる学習指導法の工夫に努める。1単位時間の学習過程を工夫する。

☆子どもの特徴・適性に応じた授業の創造に努めるとともに、家庭学習を徹底する。

☆基礎的・基本的な学力を身につけ、自ら学ぶ力・活用する力の育成に努める。

☆朝読書・家庭学習に取り組み、日常生活における読書活動の活性化に努める。

☆最適な学習環境の工夫に努める。

研究推進による具現化

〈研究主題〉

共に学び、一人ひとりが輝く授業の創造

～他教科に生きてはたらく言語力の育成～（2年次）

Ⅱ 研究の進め方

1 研究主題

共に学び、一人ひとりが輝く授業の創造

～他教科に生きてはたらく言語力の育成～（2年次）

「共に学び」 …コミュニケーションを図ることで、自分の考えや思いを友だちと比べたり、参考にしたりしながらより高度なものへ高めていく姿

「一人ひとりが輝く」 …身につけた言語力により、自信を持って学んだことを発信する姿

「言語力」 …「知識と経験、論理的思考、感性・情緒等を基盤として自らの考えを深め、他者とのコミュニケーションをおこなうために言語を運用するのに必要な能力」
（文部科学省：言語力育成の方策についての資料から）
言語力の育成の中核は国語科であり、その力が他教科の言語活動へと大きく影響してくる。
言語活動の充実こそが育成には不可欠である。

2 主題設定の理由（1年次「研究のまとめ」より）

1年次では、1時間の学習過程で学年に応じた言語活動を位置づけ、繰り返しの指導をしていくという手だての実践化を図ってきた。言語力の基礎的な力は、ついてきているといえる。しかし、十分な定着を見るまでには至っていない。つまり、活用できるスキルがたりない。言語力を用いながら授業にのぞむ具体的な姿を明らかにする必要がある。

ようやく1年かけて単元を貫く言語活動のあり方や、それに伴う単元計画などに着手できた研究経過であった。そこで、さらに今年度は一年次の研究方向を土台として、深めていくことが望ましい。言語力の育成と学力保障を中心に校内研究を進めていく必要がある。

そこで、国語科における他教科に生きて働く言語力の育成を目指すことをテーマとして考えた。さらに、この主題を支える大きな柱として、子どもたちが学び合い一人ひとりが輝ける授業を創り出すことを願い、本テーマを設定する。

また、国語科における1時間完結型授業のあり方も大分県教育委員会が示す単元構成を基に実践化を図っていきたい。

3 研究仮説

1時間の学習過程で学年に応じた言語活動を位置づけ、繰り返しの指導をしていけば言語を正しく理解する力と適切に表現する力が身につく、確かな言語力が育つであろう。

4 研究方法

- (1) 共に学ぶための学習活動のあり方を探る
- (2) 国語科における単元を貫く言語活動の提案
- (3) 1時間完結型の授業展開の創造

大分県教委による提示

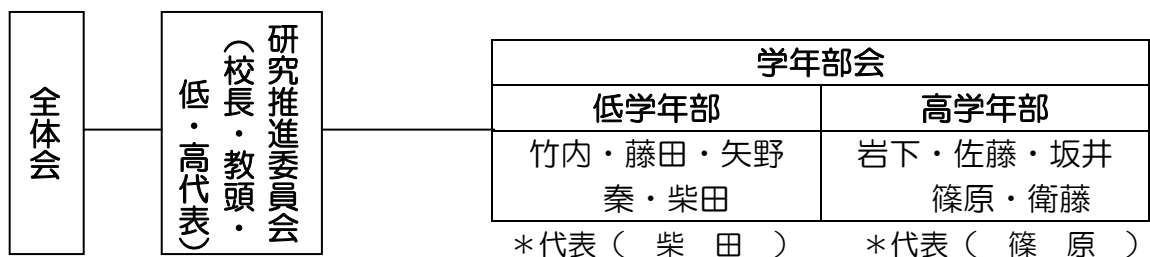
【単元構成】

- ①単元指導事項の設定
- ②具体的な言語活動例の設定
- ③単元目標設定と学習活動の組織化
- ④評価基準の設定

【展開】

- ①導入（ねらい・手順・方法）
- ②展開（目的を持った学習活動）
- ③まとめ（学びのふりかえりと広がり）

5 研究組織



6 その他の研修

- 特別支援教育研修（竹内）
- 人権教育研修（柴田）
- 服務規律研修（校長・教頭）
- 初任者研修等○J T（篠原、柴田、岩下、矢野）

7 年間計画

月	日	内容	その他の研修
4	17	研究主題・仮説・方法について	
	24	学年部研（総合的な学習の時間）	
5	1	研究主題・仮説・方法について	
	8	年間計画決定	
	22	子どもの実態交流	特別支援教育研修①
	29	学年部研	
6	5	事前研	
	12	授業研①（ ）・事後研	
	26	子どもの実態交流	人権教育研修①
7	3	学年部研	
	10	1学期のまとめ	
夏季休業中		学年部研	特別支援教育
9	4	2学期の研究について	
	11	子どもの実態交流	人権教育研修②
10	2	学年部研	
	9	事前研	
	23	授業研②（ ）・事後研	
	30	子どもの実態交流	
11	6	学年部研	
	13	事前研	
	27	授業研③（ ）・事後研	
12	4	子どもの実態交流	人権教育研修③
	11	期末整理	
1	8	3学期の研究について・学年部研	
	15	事前研	
	29	人権授業研（ ）・事後研	
2	5	子どもの実態交流	
	12	研究のまとめについて	
	26	研究のまとめ作成	
3	5	研究紀要印刷	
	12	研究紀要製本	

国語科提案授業①（ ）②（ ）③（ ）

人権提案授業 *冬の人権授業レポート含む*（ ）

夏の人権授業レポート提出（ ）

「野上小学校 学習の約束」提案の趣旨・ねらい

すべての基盤となるのは、子どもとの信頼関係を築くこと、常に励ます姿勢をもつこと、がんばらせその努力を認める姿勢と態度を持ち続けることを、すべての教育活動でつらぬくことである。そのうえで、学年（担任）によって異なる指導方法や環境をあらため、全学級でそろえることで、

- ① 統一した指導がなされることで、積み重ね的な指導が期待できる。
- ② 学年ごとで異なる指導の違いによる子どもの混乱、不要な適応ストレスを解消することができる。
- ③ 環境を整えることで、落ち着いた環境の中で学習することができるようになる。
- ④ 掲示された学習結果や作品が刺激を与え、学習意欲を高めたり、教育的作用を及ぼしたりすることが期待できる。

「野上小学校 学習の約束」

I 学習の準備

- 学習用具は、前日のうちに準備しておく。
- 筆箱の中に赤鉛筆・青鉛筆、鉛筆・消しゴム・定規（2年以上？）を常に入れておく。
- シャープペンシルは使わない。（高学年は移行期を設定する）
- 下敷き、定規をきちんと使う。

【5・6年生の算数の例】

- 下じきを使います。
- 定規（じょうぎ）と赤と青の鉛筆（ボールペン）もいつも筆箱に入れておきます。
- 直線を引くときは、必ず定規を使います。
- 数字や文字を書くときは、ていねいに書きます。
- のりとはさみを学校においておきます。

II 休み時間のすごし方

- 始まりのチャイムが鳴るまでに、席に着く。
- 授業が終わったら、次の授業の用意をしてから休む。

III 授業の始めと終わり

- 教師は始業・終業を守る。
- 始まり「姿勢をよくしてください。」「はい」「これから、〇〇の勉強を始めます。」
- 終わり「姿勢をよくしてください。」「はい」「これで〇〇の勉強を終わります。」

IV 話の聞き方

- 話している人の目を見て、終わりまで静かに聞く。

V 発表の仕方

- 発言したいときは、「はい」と短く言って手を挙げる。
- 指名されたら、「はい」と返事をして立つ。
- 最後の「です。」「ます。」まで、大きな声ではっきり言う。

高学年

「〇〇さんの意見に賛成です。わけは・・・だからです。」
「わたしは〇〇さんの意見に反対です。わけは・・・だからです。」

(話し手の意図をとらえながら聞き、自分の考えと比べるなどして考えをまとめることができる。)



中学年

「わたしは〇〇だと思います。わけは・・・だからです。」
「わたしも〇〇さんと同じで、・・・だと思います。わけは・・・だからです。」
「〇〇さんに付け加えます。」「〇〇さんに質問です。」
「わたしは〇〇だと思いますが、〇〇さんはどう思いますか」「時間をください」

(友だちの意見を聞いて質問したり感想を述べたりすることができる。)



※受身から積極的な態度へ

低学年

「〇〇です。」 「〇〇だと思います。」 「ほかにあります。」
「できました」(できたらだまって手を挙げる)

(自分が考えていることを、はっきりと言うことができる。)

VI 声の大きさ

- 0 口を閉じる・・・・・・・・・・・・・静かに話を聞くとき
- 1 となりの人にささやく・・・・・・・・・・・・・となりの人と話をするとき
- 2 向かい合った人に聞こえる大きさ・・・・・・・・・・・・・班で話しをするとき
- 3 教室にいる人全員に伝わる大きさ・・・・・・・・・・・・・授業中に発表するとき
- 4 体育館で全員に聞こえる大きさ・・・・・・・・・・・・・集会で発表するとき